

## “サイバーコリア21” 韓国に抜かれる日

97年12月にIMF緊急融資を受け入れて後、韓国はわずか1~2年で驚異的に経済を回復させている。そのエネルギーの源は“サイバーコリア21”<sup>Jump01</sup>、2002年までに世界で10位以内の高度情報化社会を目指すというスローガンだ。経営者はIT化をアピールし、ソウルのビルには右も左も“.com”などのURLがあふれる。しかし、3月のKOSDAQ株式市場の暴落を受け、.com系ベンチャー企業は急速に勢いを失い、投資誘致に失敗したかなりのベンチャー企業が今年の夏を越せないという「8月怪談」も囁かれる。

このような状況下、韓国では全5社の移動体通信事業者がしのぎを削っている。800MHz帯の電波を使用するSKテレコムと新世紀通信。さらに、PCSと呼ばれる1.8GHz帯の電波を使用するn016（旧韓国通信フリーテル）、HansolM.com（旧ハンソルPCS）、LGテレコムだ。なお、業界3位の新世紀通信は首位のSKテレコムに買収され、5位のHansolM.comは業界2位のn016

に買収されることになった（吸収合併ではなく株式買収のみで、それぞれが独自の営業活動を行っている）。次世代携帯電話事業者の免許が受けられるのは3社に絞られる見込みで、この業界再編はそのためのステップと思われる。

<sup>Jump01</sup> www.mic.go.kr

情報通信部によれば、携帯電話の加入者総数は、2000年4月現在で27,519,794件にのぼる。

## SKテレコムの快進撃と 戦略コンテンツ「GET・JAPAN」

今回、筆者はまず携帯のガリバー、SKテレコムを訪問し、モバイル無線事業部Soo il Kim シニアマネージャー代理とJun Young Seo アシスタントマネージャーに話を聞いた。SKテレコムは国内43%の市場シェア（韓国・情報通信部調べ）を誇り、首位の座を快進撃中だ。ドコモ出資の噂などで名前を聞いた人も多だろう。接続方式はCDMA、通信プロトコルはWAP方式を採用している。SKテレコムの携帯電話によるインターネット接続サービスは「n.TOP」<sup>Jump02</sup>といい、携帯電話メールは一件あたり30ウォン（約3円）にもかかわらず、約1000万件/月のトラフィックを記録し、さらに増加の一途をたどる。本サービスがスタートしたのは今年2月とまだ日は浅いが、コンテンツも150サイトと急速に増えている。おまけに、正式に書面で提案してくるコンテンツプロバイダー（以下、CP）が1日に20~30件、月間平均では1000件弱の申し込みが殺到しているそうだ。

10月には日本よりも早く、現在の28.8kbpsの転送速度を144kbpsへと高速化する。SKテレコムは日本市場についてもかなり研究しており、インタビュー中も、ドコモのiモードについて鋭い質問が飛んできた。今後は競争力のあるCPを育てていきたいと

明日のポケットeライフを占う!

Vol. 2

# ケータイ 先進国 探訪

第2回

kei tai sen shin koku tanbou

## 日本に急迫する韓国モバイル市場の全貌



小野 達人

ono@i-hakuhodo.com

慶応義塾大学90年卒。(株)博報堂インタラクティブ局プロデューサー。幅広いインタラクティブメディアの中でも、特にモバイル領域を専門とし、広告会社の枠にとらわれずにモバイル関連ビジネスに取り組んでいる。従来の通信業界の視点とは異なった、モバイルECに関するビジネス書「ポケットeライフ」(レゾナンス)を刊行。



語り、日本のCPと提携し、日本の情報を韓国語化して提供する「GET・JAPAN」<sup>Jump02</sup>というサービスを7月15日よりスタートさせた。

一方で、2002年のワールドカップ開催も視野に入れ、日本のCPとの関係を強化させている。毎月10社を超える日本のCPがSKテレコムを訪れ、占いやキャラクター系を中心に、コンテンツの提供を申し込んでいるそうだ。「一番の問題は、日本の文化をそのまま、韓国市場に合ったコンテンツにできるかという点です」。Soo il Kim氏は「モバイルインターネットがボーダレスのように、コンテンツもボーダレスです。当然ビジネスチャンスは増えるだろうから、コンテンツをはじめ、日本と韓国で力を合わせて世界を舞台にビジネスができれば嬉しい」と、次世代携帯電話でのボーダレス化を前提とした考えに意欲的だ。

<sup>Jump02</sup> [www.n-top.com](http://www.n-top.com)

<sup>Jump03</sup> [www.getjapan.co.kr](http://www.getjapan.co.kr)

#### CDMA 端末のグローバルサプライヤー 三星エレクトロニクス

では、キャリア（移動体通信事業者）以外にはどのような戦略をとっているのだろう。次に、製造メーカーのトップ、三星エレクトロニクス<sup>Jump04</sup>のHaeng-Woo Kim Anycall事業部ディレクターにインタビューした。

昨年、韓国政府と中国政府は、CDMA技術を含む情報技術関連分野において相互に協力していくことで合意し、国家レベルで話が進んでいる。これは韓国のNam Kyong-Sok情報通信相と中国のWu Ji Chuan情報産業相の会談の中で合意されたもので、韓国は中国にCDMA関連技術を移転し、次世代携帯電話「IMT-2000」についても協力していくという。産業協力を促進することで合意し、すでにSKテレコムは中国の移動体通



信事業者とコンタクトをとっているようだ（『ASIA INTELLIGENCE WIRE CHINA BUSINESS INFORMATION NETWORK』1999年6月15日）。

三星エレクトロニクスも中国市場に意欲的だ。その戦略の一環として、今夏のシドニーオリンピックではオリンピック委員会本部だけでなく、中国オリンピック委員会のオフィシャルスポンサーも務め、資金援助だけでなく携帯電話も提供する。ほかにも、米スプリント社へ端末を供給したり、米エアータッチ社とCDMAシステムを納入する契約を交わしたりなど、米国市場へも積極的に進出している。さらに、ブラジルなど南米市場へも意欲的で、日欧の企業が埋めきれない市場をカバーすることでその存在を示している。

現在300万台と言われるインターネット接続型携帯電話だが、三星エレクトロニクスは、来年の7月には1.5倍程度まで市場が拡大すると考える。三星エレクトロニクスの携帯端末のブランドは「Anycall」といい、品質や機能以外にもブランディングを重要視している点が特徴だ。95年以降、国内ナンバーワンのシェアを誇り、MP3PhoneやテレビPhoneなど、さまざまな端末の製造にもチャレンジしたが、「市場の環境や通信速度などのインフラが整備されていないため、成功には至らなかった」とHaeng-Woo Kim氏は語る。さらに「通信インフラはW-CDMAと

cdma2000の2者の競争になっているが、ユーザーのメリットを考えるともっとオープンにすべきだ」とも語る。すべてのキャリアの要望を受け入れるという「端末メーカー」三星エレクトロニクスと、「通信免許事業者」として権益保持の立場を取るSKテレコムの図式は、日本とまったく同様のものだ。

<sup>Jump04</sup> [www.samsung.com](http://www.samsung.com)

#### ローミングという名の ボーダレス化

このように、日本と変わらない携帯電話市場を抱える韓国。南北統合に向けてスタートを切ったが、経済的な格差ゆえに韓国の負担は大きい。統合へいきなり進むよりも、南北統合の1つの段階として、交易など人の行き来を先に確立すべきだとの考えも始めている。このような状況で、携帯電話のように、人と人とのコミュニケーションを支えるビジネスはどのような役割を演ずるのだろうか。

韓国は依然として戦時体制を引きずる統制国家だが、日本や（北朝鮮を経由して隣接する）中国は韓国にとって隣国だ。「ビジネスに国境はない」とよく言われるが、中国のWTO加盟や2002年ワールドカップなどを経て、携帯電話はローミングという言葉で国境を越えられるのだろうか。次世代通信規格をめぐる競争は国家の産業をかけた戦いなので、稚拙な意見は差し控えたいが、モバイルビジネスはインターネットよりも、より一層、国境を越えることを実感できるビジネスである。人と人の行き来をサポートするモバイルビジネス。その実験はすぐその「身近な世界」<sup>Jump05</sup>ですでに始まっているのだ。

韓国の携帯電話市場の詳細が知りたい方は以下のアドレスへメールを。  
[korea-data-news@pocket-e-life.com](mailto:korea-data-news@pocket-e-life.com)

筆者オススの無料韓日翻訳サービス（会員登録制。登録は無料）

<sup>Jump05</sup> [www.allkorea.co.jp](http://www.allkorea.co.jp)

#### table

携帯電話事業者一覧表

通信事業者	加入者総数(人)	サービス名称	電話番号	帯域	ブラウザ	URL
SKテレコム	11,932,554	n.TOP	011-	800MHz	WAP	<a href="http://www.sktelecom.com">www.sktelecom.com</a>
n016	4,836,817	PersNet	016-	1.8GHz	MSモバイルエクスプローラ	<a href="http://www.n016.com">www.n016.com</a>
新世紀通信	4,028,419	i-touch	017-	800MHz	WAP	<a href="http://www.shinsegi.com">www.shinsegi.com</a>
LGテレコム	3,677,060	ez-i	019-	1.8GHz	WAP	<a href="http://www.pcsoir.co.kr">www.pcsoir.co.kr</a>
HansolM.com	3,044,944		018-	1.8GHz	MSモバイルエクスプローラ	<a href="http://www.hansolm.com">www.hansolm.com</a>

SKテレコムのWAP方式とは異なる。前バージョンの方式。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)